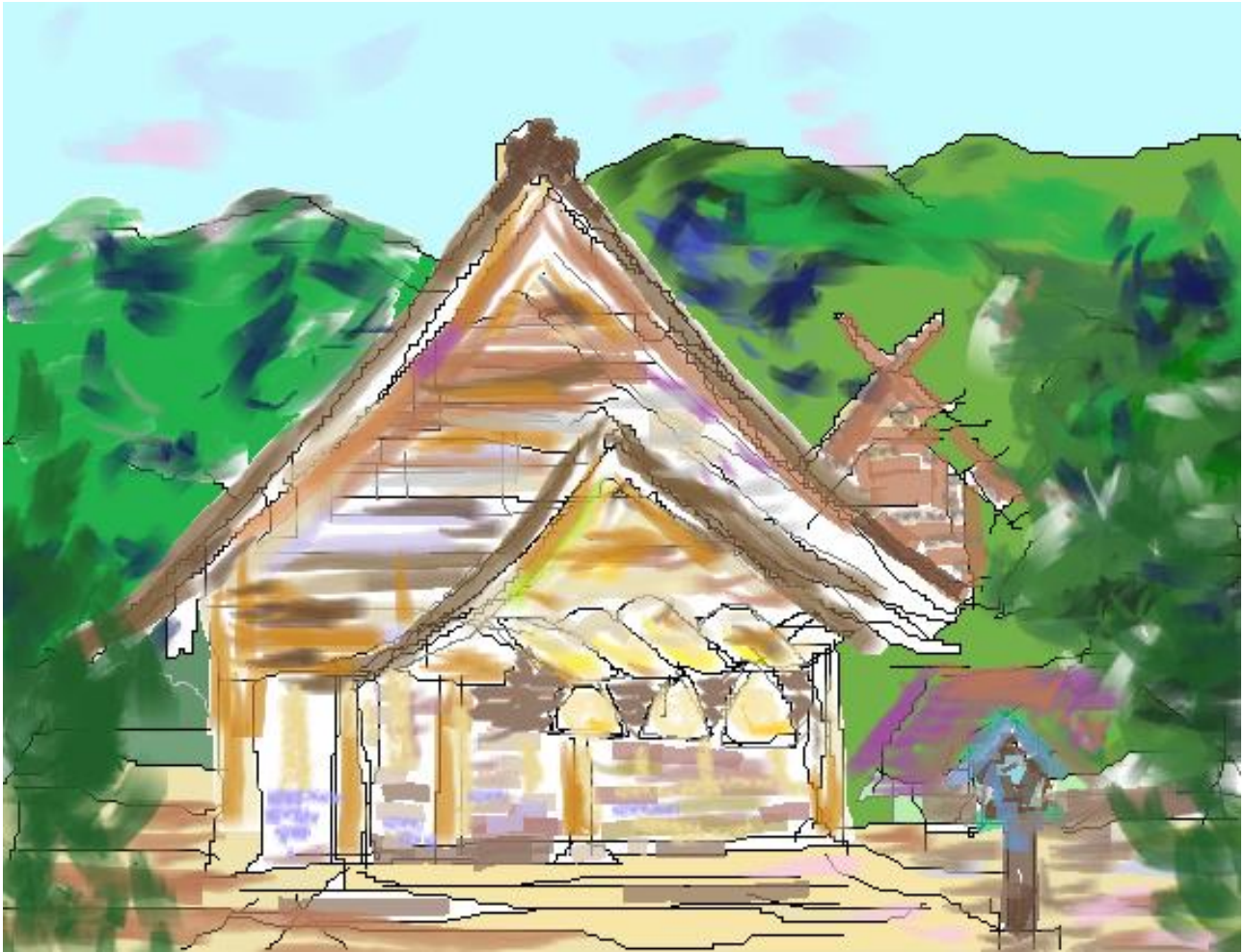


http://www



目次

■【年頭のあいさつ】	学校長から年頭のあいさつ	2
■【学生自治会】	平成27年度年頭にあって	3
■【看護教員から】	教育の質の向上 教育にナラティブを活かす～学生・教師の「語り」から学ぶ～	4
■【看護教員から】	看護師のみる、からだのおはなし	7
■【教員研究会報告】	中国四国地区 国立病院機構 成人看護学教員研究会の活動	
	中国四国地区 国立病院機構 小児看護学教員研究会の取り組み	8
■【保護者からのメッセージ】	大きく成長したお～親の気持ち～ 神聖なる式典に立ち会わせていただいて	9
■【ナースングセレモニー】	新たなスタート ナースングセレモニー開催にあたっての組織づくり 人ひとりの大切さに気づく	10
	看護とは何か、私たちが目指す看護師像 私達の「誓いの言葉」をつくる	11
■【安全な街づくり】	防犯の講義・防災の訓練に参加して	12
■【クリスマス会】	クリスマス会での勇気～手話部の活動～	13
■【3年生】	今年の一文字	14
■【2年生】	今年の一文字	15
■【1年生】	今年の一文字	17
■【インタビュー】	今時の3年生に聞きました	18
■【お知らせ】	今後の予定 編集後記	19

独立行政法人国立病院機構
 浜田医療センター附属看護学校
 〒697-8512 島根県浜田市浅井町 777-12
 TEL 0855-28-7788
 mail: hiyoko1@lime.ocn.ne.jp
 http://www.hamakan-nh.jp/

発行責任者
 編集責任者
 編集

石黒真吾
 中田佳代子
 花子紀子、田儀千代美、藤井光輝、隈部直子
 小田川良子、畑中美保、豊福瑞穂、三家本八千代
 沖田哲美、郷原章
 岩成美樹、松野由香、金山和正



皆さん、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

昨年は浜田医療センターにとって病棟再編成の大きなうねりがありました。まず6月に7：1看護基準を取得して、7月に回復期リハビリテーション病棟の立ち上げ、そして今年1月から地域包括ケア病棟への転換と病棟機能が急性期と回復期の両方を持つ病院となりました。これまで急性期の病院として役割を担ってきた当院ですが、医療環境がどんどん変わってきており、高齢化社会に対応していくためとして急性期病床数は縮小され、回復期から介護・在宅への流れが推し進められています。

今後、看護師の需要は急性期からむしろ回復期病床、介護施設さらに在宅（訪問看護）の領域で増えていくように思われます。このような流れのなかで、簡単には言えませんが、慢性期や在宅の場では高度な医療技術ではなく、療養上の世話をする上で本来の看護力が問われてくるように思われます。他職種からなる地域包括ケアシステムでは看護師が介護や福祉の面で中心的な存在となり、より一層看護師の判断が求められるようになりますし、一方で責任も重くなるでしょう。今後、看護師としていろいろの選択肢が選べるとも言えます。当校の学生が看護師となり、それぞれの領域でしっかりとした看護感をもって自身の中で確立していくよう、育ってくださることを願います。

さて、1月に入り病棟から3年生の姿は消え、1・2年生が中心となりました。2月の看護師国家試験に向けて、いま3年生諸君は最後のラストスパートといったところでしょう。病院2階のラウンジで勉強にいそむ3年生をよく見かけます。時たま声をかけるのですが、やはり夏から秋は余裕というより、自身のことでしっかり捉えられていない、なんとなく他人事のような感覚を感じます。ところが、今の時期になると彼女たちの使う参考書は手垢でなじんできて、必ず3色の線が引かれています。同時に顔立ちがきりりと引き締まってくるのです。

目標は当然、全員合格。教員も一緒になって頑張るぞ。



1月23日鏡びらきの会を開きました。100%合格を願って！

後期の活動を行うにあたって今年も学生が過ごしやすい学校生活を送るためにいろいろなことに挑戦をしていきたいと思ひます。1つ目は輪転機の使用を止めて新しいコピー機を購入するかどうかを検討しています。現在の輪転機の使用はクラス全員が必要としていて11枚以上の使用を認めています。しかし、問題として個人の目的で使用をしたり、11枚以下でコピーをしてしまうことです。11枚以下でコピーをすると自治会が赤字となり、赤字になると6ヵ月に一回集めている自治会費が多くなるという悪循環になってしまいます。また、現在使用している輪転機が老朽化をしているため、今回新しくコピー機を購入することが検討されています。また、実習の時もコピー機が増えることによって効率よく行うことができると考えています。そのため、後期の間で検討をして決定していきたいと思ひます。2つ目は浜田駅活用の活性化についてです。前期では話し合いの場が一回しかなかったため、後期では駅の職員の方と連携をとり話を進めていきたいと思ひます。3つ目は節電についてです。冬の季節になり暖房を使用することが増えてきました。そのため当然電気代も上がってきます。少しでも節電をするためにクラスに呼びかけを行い、無駄に暖房を使用しないことや、教室を使用していない場合は電気と暖房を切るということを徹底していきたいと思ひます。4つ目はアンケートを学生に行い、意見を取り入れていくことです。アンケートの内容としては自動販売機に置いて欲しいものや学校で困っていることはないかなど学生が快適に過ごすことができるようにしています。また、前期では自治会ボードを設置して自治会からのお知らせやアンケートについての掲示をしてきました。後期も引き続き行っていきたいと思ひています。その他にも学生が見たくなるような工夫を検討していきたいと思ひます。ボランティアをすることによって様々な経験を積むことができたり、地域の方達に浜田の看護学生について知ってもらうためには良い機会だと思ひます。



看護学生として、自らの生活を考える時、日本の状況あるいは世界の状況を視野に入れ、看護職として人が生きる力をたくわえるような、生活の質について考えられる学校自治会員であるように願って自治会活動を頑張っていきたいと考えています。



学生自治会執行部

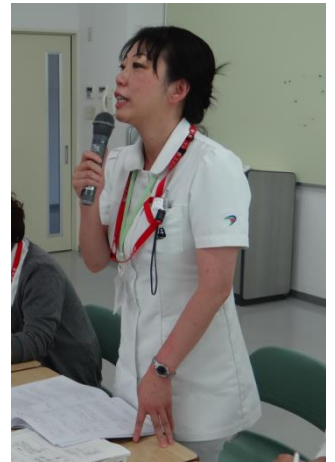
教育の質の向上 教育にナラティブを 活かす～学生・教師の「語り」から学ぶ～

実習調整主任
花子紀子

近年、医療や看護を始め心理やケア場面に、「語り」すなわちナラティブと言う考え方が取り入れられてきています。ナラティブとは、ストーリーや物語という意味を持つ言葉です。当校でも、教育にナラティブを活かしていきたいと考えています。

臨地実習では患者と学生がケアリングを通して痛みの体験を分かち合い、学生が自らの看護を見つける体験をします。それぞれの学生の体験を大切に体験を分かち合い学んでいきたいと思っています。もちろん、私たち教員も看護師としての経験があります。私たちの豊富な看護師としての体験も学びに役立てていく必要があります。そのためには、「看護を語ることを通して自らの看護を発見する」そして「看護の語りを聴くことにより看護を考える」ことで、学ぶ者同士が体験を分かち合うことにより新たな看護実践の知識や技術をつくり出していくことになると思います。

学生も教員も、講義、実習のカンファレンス、実習終了後のまとめの会などいろいろな場面で看護を語りながら学習をしています。そこで、HHN 看護学校便りに学生の語り、教員の語りを連載し、語りの中からどのような看護を見つけたのかご紹介いたします。



I. 自らの看護実践の記述

事例のテーマ：「何か変？送られる視線と何度も病室を出入する行動」

心臓血管外科と循環器内科の混合病棟で準夜勤の 2 日目であった。準夜勤は 2 人で行い、1 日目はフリーで与薬や処置等、2 日目はリーダーで 47 床の患者全員の観察と対応を担当する。3 年目の私は、先輩看護師と一緒に夜勤するのが常であった。夜勤のリーダーの日はいつも、重症個室 4 床の心臓の術後急性期患者の観察と対応や薬剤の交換に時間がかかるし、何かあったら対処できるか、寝たきり患者さん 8 人の観察や 2 時間おきの体位変換とおむつ交換ができるか、何より時間内に患者全員の部屋回り（患者の観察）と対応ができるかという不安を感じていた。私にとっては、通常の業務の流れをこなすことだけでも時間との闘いであり、いつも「何事ありませんように」と神様に祈っていた。

その日も、申し送りを受けて 18 時の部屋回りに出発した。予想した通り、重症個室の患者さんの観察と対応と引継ぎ事項の確認に時間がかかり、寝たきり患者さんの観察や体位変換等を済ませ、部屋回りを半分終えたのは 20 時近くだった。私は、一今日は病室を出るたびに廊下に出ている A さんを見かけるし、チラチラこっちを見ているような気がする一と思った。A さんは、明るくて人柄がよく看護師とも気さくに話す方で、翌週には心臓の冠動脈 3 本のバイパス手術を控えていた。しかし、重症患者の 2 時間ごとの観察が必要で、それを終えたら消灯時刻まで残り 30 分となっていた。私は、一あと 30 分。消灯までに残りの患者さんのところを回らないと一と思い、部屋回りを再開した。すると、A さんが部屋から出てきて「看護師さん」と声をかけてきた。私は「A さん、何でしょうか？」と返答したが、A さんはもじもじするだけで何も言われなかった。私は、一A さん、どうしたんだろう。いつもじっとしている方ではないけど、今日はやけに出入りの激しさが気になる一と思った。しかし、私は時間がないことで焦っており、胸部症状がなさそうなので「もう少ししたら A さんのお部屋に伺いますね」と言うと A さんは「わかりました」と部屋に戻られた。15 分後に A さんの病室に到着すると、椅子に座っていた A さんは勢いよく立ち上がり「看護師さん。私の話を聞いてください」と言われた。私は、一えっ、私?! なんだか深刻そう。対応できないかも。経験のある先輩の方がいいのでは一と思い、「お話を伺うのでしたら先輩看護師の方がちゃんと A さんのお話を伺えると思いますが・・・」と伝えた。

★しかし、Aさんは病室のドアの前に立ち穏やかにゆっくりと「あなたに話を聴いてほしいんです」と言われた。これまでの、気さくで明るいAさんはここにはいなかった。今日、なんとなく気になっていたAさんのウロウロしていたのは、私を待っていたからなのだと気づいた。そして、やっと声をかけてくれたのに、私はAさんの話をすぐに聞けてない事や話を聞いたら先輩の方がいいのではないかと行ってしまったことに対して申し訳なさで一杯になった。と同時に、一どうしよう。私に話したいのよね。ちゃんと聴けるかしら。ちゃんと聞かなくては。そのためには、きちんと時間をとらないと一と自問自答しながら、Aさんの話を受け止める自信がなく不安が込み上げてきた。私は、Aさんに「私は、患者さんのところを回って様子を確認することが残っています。ゆっくりとAさんのお話を聴かせていただきたいので、消灯まで待ってもらえますか？」と伝えた。Aさんは「待つとるから、絶対に来てくださいね」と言われ、Aさんの話はとても重大なことだと感じた。

急いで残りの部屋回りを済ませ、ナースステーションに戻った。私は、先輩看護師にAさんとの出来事と自分の感じている不安や時間に沿った業務ができないことを相談した。

★★先輩看護師は「Aさんが話したいのは今、あなたになんてしょ！しっかり聴いてきて。答えられないことは一緒に考えよう。ナースコール対応やルーチン業務は任せて」と背中を押してくれた。私は、不安が残っていたが先輩の存在にとっても安心した。私は病室に行き「Aさん、お待たせしました。ずいぶん待たせてしまって申し訳ありません」と言った。Aさんは双室で、私が訪室すると同室の患者さんは、何も言わずにスーッと部屋を出られたため2人きりになった。Aさんはベッドサイドに座り、私は椅子に座った。Aさんは「泣かせてください。看護師さん」と言ったかと思



うと、大きな体を丸めて両手で顔を覆い大声を挙げて泣かれた。私は、Aさんはとても辛かったのだと感じたが、何と声をかけてよいのかわからず、Aさんが泣き止むのを待った。Aさんは「手術は、95%の成功率と聞き承諾した。けれど100人中の5人になったらと思うと怖くて夜も眠れない。心臓を止めて手術して、終わった時に心臓が動かなかったら死んでしまう。家では強い夫、強い父親であったし、小さいながら会社も経営していて従業員の手前もある。泣きたいほど怖かったが、今までずっと家族の前でも従業員のの前でも泣けなかったし、これからも泣くことはできない。娘のようなあなたの前で泣いてしまって、少し恥ずかしいが気持ちが楽になった。一つお願いがあります。手術当日、家族や従業員の前で取り乱してしまうのではないかと気がかりでならない。そんな姿は誰にも見せられない。手術室には眠った状態で行けるように、先生に頼んでもらえませんか」と言われた。

私はAさんの話を聴きながら、一術前の患者の不安の緩和に努めることは学んでいたけど、Aさんはいつも明るく看護師とも気さくに話す人という印象が強く、術前の不安があるという視点でAさんを観察してなかったな。自分だったら怖くて大騒ぎしている一と思った。そして、術前の患者さんの不安や恐怖に対応できていない自分に気づき反省した。

話し終わった時のAさんは、すっきりした表情をしており、いつものAさんに戻ったように感じた。私は、Aさんに「気づけなくてごめんなさい。話して下さってありがとうございます。術前の薬は麻酔科の医師が処方するのですが、まず心臓外科の主治医にAさんが眠った状態で手術室に行きたいと希望していることを伝えてもいいですか？」と聞いた。Aさんは、「先生が来たら自分からもお願いしてみるけど、看護師さんからもお願いしてください」と言われたため、「主治医と麻酔科の医師が相談されて、Aさんの希望が叶うとよいですね。一緒にAさんの希望を伝えましょう」と言い、退室した。そして、先輩看護師に報告し、深夜勤者に引継ぎ、夜勤が明けてから上司に報告した。そのうえで、主治医にAさんの思いや希望を伝えた。その後、主治医はAさんと面談し、麻酔科の医師と検討した結果、Aさんの希望に添った前投薬が処方され手術日を迎えた。

II. 看護実践の意味づけ

以上の記述について、ナラティブアプローチの視点で看護実践の意味づけを考察する。

物語が動く瞬間を考えてみると「★Aさんは、病室のドアの前に立ち穏やかでゆっくりと『あなたに話を聞いてほしいんです』と言われた。これまでの、気さくで明るいAさんはここにはいなかった」と「★★Aさんが話したいのは今、あなたになんでしょ！しっかり聴いてきて。答えられないことは一緒に考えよう」があげられる。

まず、★について考えてみる。私は、普段Aさんと接する中で、明るく人柄がよくて気さくでAさんの方から話しかけてくるという印象をもっていた。日頃の患者さんを知っていないと、ウロウロしているが話しかけてこないAさんに違和感を持ち、穏やかでゆっくり話すが進路を塞ぐという行動が「何か変だ」とは思わなかっただろう。日頃のAさんの様子からは、手術に対して強い不安を抱えていることに気づきにくかった。しかし、平常心を保とうとしながらも切羽詰った状況を伝えるメッセージ性が強く心に響いた。このメッセージを受けたことが、この物語が動く最初の瞬間だった。

次に、★★について考えてみる。私は、Aさんが話を切り出そうとしたとき、対応できないと思い一度は先輩看護師にゆだねようとした。その後、私はAさんの切羽詰った状況を感じ取り、Aさんの話を聴く必要性があると感じたが、受け止められないかもしれないという自信のなさから不安が増強していった。今、振り返ってみると、「話がある」「あなたに聴いてほしい」と言われたときに二度「できない」と感じている。

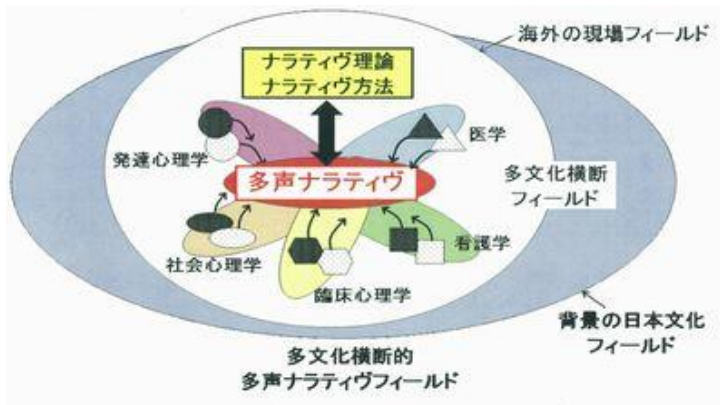
一度目は、看護師としての責任を引き受けずに先輩看護師に託して逃げようとしている。しかし、二度目では、Aさんが平常心を保とうとしながらも切羽詰っている状況を感じ取り、Aさんを受け止めなければという責任感が生じたことでプレッシャーが生じ自分を追い込んでしまっている。

もし、このような精神状態でAさんと会話をしていたら、何とかしなければと思うあまり、必死になってAさんに話しかけてなだめしまい、Aさんとの対話ではなくなってしまうところであった。しかし、私は先輩からの言葉で気負いがなくなり肩の力が抜けて楽になった。これが、この物語が動く2番目の瞬間である。Aさんが「これまで誰にも語らなかった物語」を語りそれを共有することが大切であり、私が話すのではなくしっかりと聴くことなのだ。それに気づいたとき、Aさんの話を聴くということで心からAさんとの対話ができると思えた。Aさんが語る物語からこれまでの生活史の中で培われたAさんの生き方や価値観を感じ取ることができた。Aさんは、手術に対する不安や恐怖心を表出できず、「強い自分」ではない姿をさらけ出してしまい威厳を失うかもしれないという恐怖心が増幅して危機的状況に追い込まれていったのではないかと感じた。

看護師の申し送りでは、「〇〇さん、変わりなし」と引き継がれることがよくある。私自身も、そのように引き継いできた。この「いつもと変わらない」は、看護師が観察を通していつもから逸脱したことに気づいたとき「変

わりがある」ことになる。ここでは、病状の観察にとどまらず、日頃の患者さんとの違いを感じ取ることである。そのためには、日頃の患者さんを記憶しておかなければならない。

明るくて気さくに「看護師さん」と話しかけてくるのが、いつものAさんという認識があり、視線を送るが話しかけてこない、穏やかでゆっくりと話すが進路を塞ぐという行動をとったAさんの様子が気になったのだろう。日々のかかわりの中で感じ取っていた日頃のその人らしいところを記憶し、違いに気づくことで物語が動いていったのだろうと思う。



早いもので浜田医療センター附属看護学校に着任して12年が経過しました。学生の実習が始まると学生の実習指導のために臨床に出向くことが多々あります。そこで卒業生がテキパキと患者さんの状態に関して患者さんとお話や検査データ、客観的な手技を用いて判断して看護ケアを実践したり、医師や多職種とその情報を共有して退院に向けて努力している姿を拝見すると胸が熱くなります。

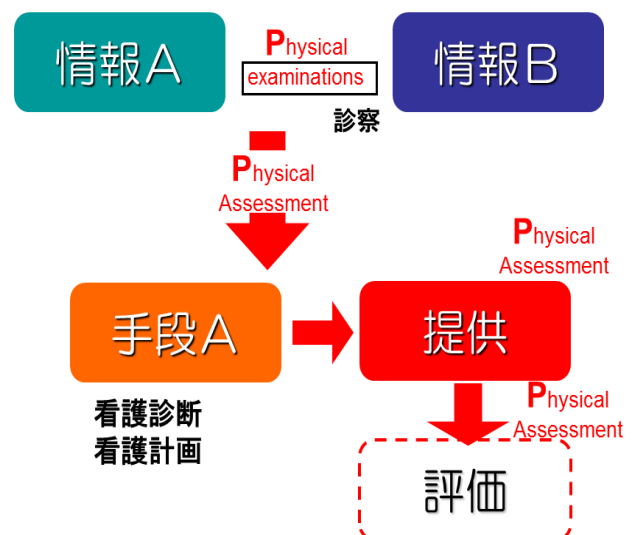
今回は「看護師のみる、からだのおはなし」をしたいと思います。私の担当科目に「フィジカルアセスメント」という講義があります。解剖生理学や疾病論の内容を包括して、体の状態をどのような手技や手法を用いて判断していくのか学ぶものです。体は60～100兆個の細胞が集まり成り立っています。細胞1つ1つはエネルギーを作ったり、結合して組織となったりと役割を果たしながら存在しています。細胞が集まり組織となり、組織が集まり器官となります。1個1個の細胞では「私」は存在しません。しかし、多くの細胞が組織や器官となり機能を果たすことで私たちが存在していけます。それは、自動車を組み立てる工場でネジばかり作成する部署があっても車が出来上がらないように、ネジ・タイヤ・フロントなどそれぞれの部署が役割を果たし、組み立てられてガソリンを入れて車が存在するのに似ている気がします。フィジカルアセスメントでは、“存在する人”の状態を判断するわけですから熱があるのか、血圧が高いのか、腕が上がるのかなど1つの査定を解剖生理学と合わせて行うだけではなく、それらを統合して患者の生活や治療はどのような問題や効果があるのか判断していきます。



これは、痛みを単に末梢性侵害受容器から中枢への一方向の神経伝達による単純な知覚ではなく、触覚や温覚など他の感覚刺激や、気分や注意などの精神状態によっても影響を受ける複雑な知覚であると認識し対応する方法です。しかし、生理学的には痛みの信号伝達のゲートはいまだに明らかにされていません。このように“からだ”について何でもわかっているわけではありません。だからこそ1つ1つの査定と全体の査定を統合して判断する必要があります。

卒業生（看護師）が行っているフィジカルアセスメントを見るたびに患者の生活や今まで生きてきた過程も視野に入れた「統合されたその人自身のからだの判断」を実施しているのだと感じるのです。

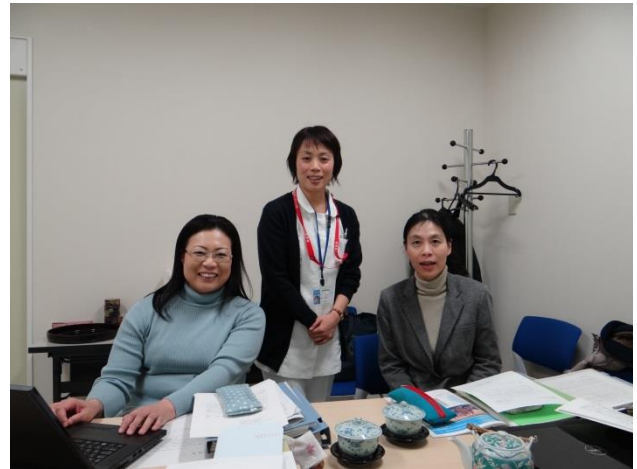
さて、近年ではIPS細胞や問題となったSTAP細胞などからだに関する話題は尽きることはありません。人体解剖が日本で初めて行われたのは1754年に山脇東洋らによるものでした。それから260年が経過して、現在では細胞レベルまで解析できる時代となりました。細胞レベルまで解析が進んでいるといっても1人1人の人は異なり何でも解決できるのかということそうではありません。私は大学院生時代に病態生理学を専攻していました。そこで学んだお話ですが、痛みをコントロールする方法にゲートコントロール説というものがあります。



岩国医療センター附属岩国看護学校 教員 八城恵 棟近由利子

明けましておめでとうございます。

一昨年に続き昨年の12月に浜田看護学校で教員研究会を行いました。看護学校の教員研究会って？と馴染みのない方もおられることと思いますので少し書かせていただきたいと思います。教員研究会のメンバーは成人看護学 終末期に関わる、または関心の深い教員を中心に構成されています。(現在メンバーは浜田：限部教員・岡山：伊東教員を含め4名で活動しています)研究会では学習教材についての研究や意見交換を基盤に、成人看護学終末期の学習目標に沿って効果的に学習を進めていく方法について研究(検討)しています。



現在実習指導案について検討していますが、実習と授業のつながりの重要性の再認識、指導のねらい、教員の願いなど意見交換は行きつ戻りつ、時には脱線しながら・・・といった状況です。毎回お互いの学校の情報交換をしながら、また他の教員の方々の経験を伺いながら進めております。この時間は私にとって其々の教員の知識の豊富さに驚き、自分の考えや頭の整理ができ、自由に話し合える楽しい有意義な時間となっています。(時間と成果については比例していないこともあり反省点の1つでもあります。)

また浜田での開催は食事も楽しみのひとつです。いつも暖かい「おもてなし」をして頂き感謝しております。

「山陽の岩国」から「山陰の浜田」は遠いと感じておりましたが、この教員研究会を通して身近に感じております。なによりも研究会を通して多くの教員の方と出会えることが何よりの成果！！であると感じています。

今後ともよろしくお願いいたします。

1年生担任 豊福瑞穂

中国四国教員研究会は、研究・研修活動を通して教員の資質の向上を図るとともに連携を深め、看護教育の発展に資することを目的とし、研究・研修活動を行います。私は小児看護学領域に所属し、本年度は小児の看護過程の展開における授業案の作成を行っております。看護過程の展開は学生が苦手意識を持ちやすい科目であり、どのように教えたらわかりやすいか、興味を持って取り組んでくれるのか大変に悩みます。また、せっかく講義で習っても、実習に出て活用できないと意味がありません。講義と実習が乖離しないように教え方や資料を工夫したり、入院しているこどもがイメージできるようにストーリーを考えたりしました。これらは、研究会で他の教員から出た意見を取りまとめ、工夫した結果です。研究会に出席する教員は、高知、愛媛、徳島、香川、鳥取、広島、山口、岡山等、中国四国地区のさまざまな県の国立病院機構の教員が月に1回程度のペースで集まり、討議を重ね、学生の教育に活かしています。同じ専門領域の教員との交流、研究・研修活動は、情報交換の場ともなり、大変に勉強になります。業務を調整して、遠いところに来ることは大変さもありますが、今後も看護教育の発展のため、研究活動を行っていきたいと思います。

大きく成長したね～親の気持ち

1年生 橋坂彩さんのお母さん 橋坂悦子 様

看護学校へ入学し、八ヶ月が経ちました。春、送り出したときに比べ、大きく成長したと思います。幼い頃からの夢を実現させる為、日々、自分なりに時間を有効に使い、努力している姿はすごいと感動させられました。

これから、さまざまな実習現場で、患者様と関わる事で、嬉しい事、辛い事、色々な経験をする事になりますが、前に進めなくなった時、娘の周りには、気にかけて下さる、先生、先輩、仲間が居ます。時間がかかってもきっと乗り越えてくれると信じています。

相手の気持ちに寄り添える素敵な看護師になって欲しいと思っています。



神聖なる式典に立ち合わせていただいて

1年生 加藤愛さんのお母さん 加藤真由美 様

この度はナーシング セレモニーを無事終了され、心よりおめでとうございます。また（生まれて初めて）神聖なるこの式典に立ちあわせていただくことができ、ありがとうございました。

主任先生が大きなキャンドルを持って入場され、ナイチンゲール像よりひとりひとり神妙なる面持ちで継火を受け、ステージでかなりの長文を揃って一言一言大切に誓われたみなさんの姿などを見て、非常に感動しました。私達にしっかりと伝わりましたよ。どの親御さんも同じような思いをされたのではないのでしょうか。

春の入学以来みなさん生活に勉強に苦しい思いをされこの佳き日を迎えられたことを思い、よく頑張ってきたねと声をかけたい思いでした。また、指導して下さった先生方、実習等に関わって下さった周りの多くの方々に心より感謝いたします。

しかしながら62期生の皆さんの勉強等はこれからです。今後つらい苦しい事があるかもしれません。その時はどうか学校長がおっしゃってくださったようにこの日のことを思い出し、また勇気をもって立ち上がって下さい。皆が応援しています。

看護師というお仕事は心身共に弱った人達を助けるとても貴いものです。自分たちが目指す仕事に誇りを持って、無事国家試験合格を目指して頑張ってください。あなたたちの将来を心より期待しています。

末筆になりましたが、諸先生方今後ともご指導をどうぞ宜しくお願い申し上げます。そして今後も62期生の皆さんで力を合わせて一步一步歩いていってください。



1年生 和久利萌子

ナーシングセレモニーの準備は約2ヶ月続き、最初におおまかな計画を立て、担当の係りを持ち、週1回リーダー会を開くことで各係りのリーダー全員が全体のことを把握し、自分の係りだけに固執しないような体制をとりました。この体制をとったことで各係りのリーダーだけでなく、クラス全体が準備の状況を知ることができ、仕事が終わった係りから他の係りを手伝ったり、自分から積極的に仕事を探すなど協力的になったと思います。しかしよりよいセレモニーを開催するためには、案を作り修正する、の繰り返しでなかなか計画通りに進めることができず行き詰ることもありました。それでも



皆で支え合って、それぞれが意見を出し合うことで62期生らしいナーシングセレモニーを開催し、成功させることができました。

皆が係りを持ち、その係りをまとめるリーダーがいて、リーダーをまとめるリーダーがいる、というような一つの組織を作ることによって効率よく皆が状況を把握できたり、クラス内の協調性を高めることができるというところを学びました。また、リーダー性を発揮した人や陰で支え努力していた人、準備が上手く進まず空気が悪くなっているとき皆を励ましてくれた人など、今まで見せたことのない一面を見せた人もいて、クラスの親睦が更に深まったと感じることができました。準備から本番まで全てを終えた今、学び得たものを胸にまた新たなスタートを切っていこうと思います。



ナーシングセレモニーは高等学校までと違い、一から全て自分たちで作らなければならず、分からないことばかりで戸惑いも多くありました。一人ひとりが役割を持ち、62期生全員で一つのものを作り上げるということは大変であることを実感しましたが、それと同時に式を終えてからは達成感を強く感じました。62期生36名がこれからも同じ夢に向かって歩みだすに当たり、全員で一つの誓いを掲げ、一人ひとりの大切さに改めて気付くことができました。これから楽しいことばかりでなく、辛いことや苦しいこと、つまずくこともあると思います。しかし、同じ誓いを掲げた仲間が傍にいないことを忘れず、励ましあって進んでいきたいです。また、クラス目標である「常笑・常昇」のように、日々笑顔を絶やさず、向上していきたいです。

1年生 三浦楓香



看護とは何か、私たちが目指す看護師像

1年生 前田葵

当日のナーシングセレモニーでは、学校長を始め、学校の先生方や病院関係者の皆様、お世話になった高等学校の先生方、保護者の方、そして先輩方に見守られながら式を挙行しました。ナーシングセレモニーを迎えるまでに、看護とは何か、というところから考え、改めて自分のなりたい看護師像を明確にしました。そして当日は、自分たちが目指す看護師とはどんな看護師かを一人ひとり個人の目標を、また、62期生36名が同じ目標を持ってそれに向かって努力していくことを誓いの言葉としました。ナイチンゲールの灯火を受け継ぎ、最初から最後まで全員で声を合わせて誓ったことで、これから実習などでより助け合っていえる仲間になったと思います。これから苦しいことや辛いことがたくさん待ち構えていると思いますが、ナーシングセレモニーで誓った言葉を忘れず、日々成長できるように何事にも前向きに取り組んでいこうと思います。



私達の「誓いの言葉」をつくる

1年生 林久美子

誓いの言葉は、今までナイチンゲールや様々な先輩方が作りあげてこられた看護を学びそれを受け継ぐことと、ナーシングセレモニーに集まっていた皆様、私たちがこれからどんな看護を提供するのか、看護師を目指す上でどのような生活を送っていくのかなどの決意を伝えることを目指して取り組むことにしました。私はそのメインとなる「誓いの言葉」をつくりあげる担当のリーダーとなりました。そのため活動は62期生全員の考えを一つにすることです。そのため、多くの話し合いを行いました。最初の話し合いはなかなかスムーズに進まず、司会の悪さ・準備不足を痛感しました。リーダーがすべき内容をわかっていないとそれはうまく伝わらないことを思い知りました。すると、他のリーダーが協力してくれ、さらに、クラスから「何か手伝うことはないか」「ここの説明をして」などの暖かい声を受け、ク



ラス一丸となって話し合いを行うことができました。ナーシングセレモニーが終わり、「良い式だったよ。」「誓いの言葉もよかったよ。」などのお言葉を頂いて、これから授業や実習をするなかで誓いの言葉を胸にクラスで切磋琢磨していきます。

最後に、私自身リーダーとして自分に何が出来るのか考える体験ができました。今回の体験をまた活かせるように日々、努力していきたいです。ご協力・ご来場していただいた皆様、ありがとうございました。

3年生 岡田 彩

今回、防犯についての講義や病院で行われた防災訓練に参加して、日頃から意識する大切さについて再認識することができました。

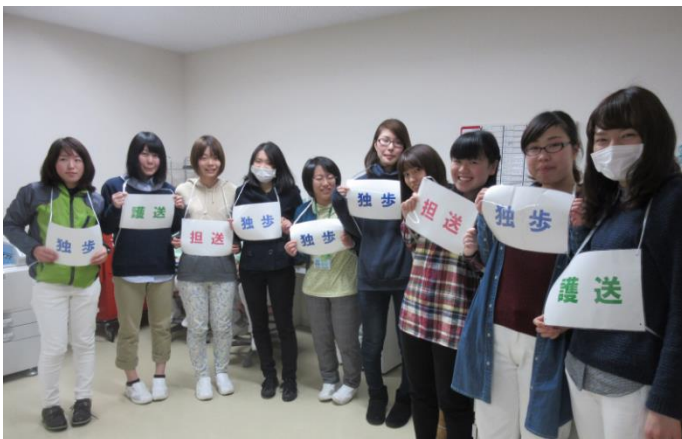
防犯についての講義では、浜田市役所の地域安全課の方に来ていただきストーカーなどの女性犯罪被害をはじめ交通事故、詐欺など私達の身近でも起こり得る犯罪についてロールプレイも取り入れながら講義をしていただきました。特に女性犯罪被害については、実際に自分達の行動を振り返ってみると犯罪に対する意識が低いことが浮き彫りとなりました。自分は良かれと思って行っていた夜道で携帯を弄ることは逆にストーカーの標的になりやすいこと、浜田市は警察の方だけでなく地域の方もパトロールをされているため大丈夫だろうと心のどこかで自分には関係ないと思っていたこと、1人で出歩く際には背後を警戒することなど自分達の意識が如何に低いかを痛感しました。地域に頼るのではなく、まずは自分達が意識して行動することが自分の身を守る大前提であるということを学ぶことができました。



防災訓練では、学生は患者役として参加させていただきました。今回は火事の設定で火災報知機が鳴り院内放送がかかってから避難するまでの一連の流れを行いました。看護師の方々の素早い行動や大変な中でもお互いに声を掛け合って患者様を搬送していく姿を見て驚きました。今までの実習を通して看護師は患者様の安全を確保する責任があるということを経験してきましたが、それは災害の時も同様で自ら消火活動を行い、患者様の状態を気かけながら安全に搬送していく様子を見て改めて看護師の責任を再認識することができました。また、円滑に避難することができたのも看護師間の報告・連絡・相談といった連携が十分にとれていたこと、事前の準備ができていたからこそだと思います。自分達はまだそのような面では未熟なところがあります。今回の

防災訓練の参加を通して、事前の準備や連携の重要性を実感でき、改めて看護師の責任も再認識することができました。

学校生活も残りわずかとなりましたが、今回の学びを日常の中でも生かしていき自分の安全だけでなく患者様の安全も守っていける看護師になりたいと思いました。



2年生 長妻里香

今回、学生主体でクリスマス会を行い、心温まる時間となりました。患者さんをはじめ足を運んでいただいた方々、クリスマス会に参加していただきありがとうございました。多くの方々に参加していただきました。私たち学生はハンドベルと手話を、おおぞら保育園の園児は歌とダンスを発表しました。ハンドベルを行う学生達は、音を合わせることや、リズムをとることが難しそうでしたが、今回のクリスマス会に向けて多くの方々に楽しんでもらうため、空いている時間を活用し一生懸命練習に励んでいました。少し緊張している様子も見られましたが、心に響き渡る素晴らしい演奏で、会場がやさしい音色に包まれました。私は手話部として音楽に合わせて手話を行いました。大勢の前で発表することで緊張してしまい、表情も硬くなってしまいましたが、患者さんをはじめ、見に来ていただいた方々から手拍子をしていただき、今まで練習してきた分、自身を持って発表することができたと思います。練習では、ただ歌の歌詞を手話で表現するのではなく、言葉の意味、一つ一つを心で感じ手話として表現することを意識して行ってきました。見に来ていただいている方々の心に、私達の思いが伝わるよう日々練習に励みたいと思います。また、おおぞら保育園の園児と、今子供たちに人気のアニメ「妖怪ウォッチ」の歌を踊りました。園児の元気いっぴいに踊る姿がとてもかわいらしく、会場の雰囲気も明るく盛り上がり、私たち学生も飛び入り参加させていただき、勇気をもって色々な活動をする事の大事さを体験しました。



クリスマス会を通して、多くの方々に楽しんでいただくことができ、私自身も楽しむことができました。相手のために思いながら真剣に取り組むことで、自分も楽しむことにつながりました。自分が成長するためにも、自分も楽しむことができるように、これからもボランティアなどの企画に積極的に参加していきたいと思いません。



進

歩

今年は60期生一人一人が新たな環境へ進む年となります。今までと違う環境で過ごすことは多くのとまどいや不安もあると思います。そのような時に60期生全員で力を合わせてきた日々を思い返し、自分や仲間を信じて、臆さず懸命に挑戦していく年にしようと思います。

また、次のステージに進むためには、自分一人の力では進めないと思います。人との繋がりを大切に、多くのことを学び、人として看護者として、己を磨き、一步一步自分の足で進んで行くために、日々努力する年にしたいと思います。

平成27年1月8日 60期生一同



今年、自分の人生の中でも、大きな一歩を踏み出すことになるので、自分の足でしっかり前へ進んでいきたいと思い、「歩」の一文字にしました。また、「歩」という字は「少し止まる」と書きます。新たな生活は、学ぶことや覚えることなどで忙しく過ぎていくのだからと思います。そのような時に、少し立ち止まり、大切なものを見落していないか、見失っていないか再確認をしたいです。

知らないことやわからないことがあると、不安になり、立ち止まりそうになることもあるかもしれませんが、それでも、一歩を踏み出す勇気を持って、挑戦していける年にしたいです。

平成27年1月5日
60期生 坂本文



今年の一字を考えるにあたって、クラス全員それぞれ考えていきました。その中で、「支・耐・克・幸・希・我・夢・進・越・心」と多くの意味ある言葉が集まりました。どれも、これから行う実習や看護師国家試験を協力して乗り越え、自分たちが目指す看護師に少しでも近づけるようにとの意志を表すものでした。その中で選んだ一字は「道」です。理由は、国家試験や実習という、みんな同じ目標に向かい、協力して乗り越えていく一年であることです。また、同じ目標に向けて全員で頑張りながらも、学校を卒業後、それぞれが目指す看護に向かって進んでいくために頑張る年です。この学校に入学した最大の目標を全員で達成していくという大きな目的に向かっていく行程であるとともに、卒業後のそれぞれの道を看護師として歩いていく道を開く一年であるという思いを込めました。

道

61期生
一同

61期生 森山結理奈



61期生 筒井佑香

私は約20年間生きてきましたが2014年は初めて身近な人の死を立てつづけに経験しました。遺された者もその死を乗り越えていかなければならないことを身をもって実感しました。そのため私はこの漢字にしました。看護学校に入学して2年が経過し看護を勉強していく中で常に考えてきた人の死ですが、これまでは正直、死への思いは悲しい別れといったイメージしかできませんでした。しかし、身近な人の死を経験したことで患者の家族へもよりそった看護が必要なことを身に染みて感じました。私は2クール目で緩和ケア病棟へ実習に行かせていただきます。今、教科書や参考書で事前学習をすすめています。これらにはあまり載っていない患者の家族の精神面のケアにも重点をおく看護を提供できるよう務めたいです。そして、その人らしく悲しみを乗り越えて生活していってもらえるよう私が力になりたいと思います。私自身、まだ死を受け入れられないところもありますが、家族、友人、様々な人の支えがあるので悲しみを乗り越えられると信じ勉学に力をささげていきたいです。

2014年は実習などを通してたくさんの人との出会いや関わりに感謝した一年でした。10月に行われた学校祭のフリーマーケットでは、実習先で関わらせていただいた方たちがたくさん来て下さいました。顔を覚えていて声をかけてくださり、中には「あんたに会いに来た」と言って下さる方もおられました。温かい言葉を掛けていただき、準備する時の大変さや上手く接客出来るかという緊張や不安が解かれ、頑張ろうという気になりました。私たちをずっと応援して下さいていることを感じ、とても嬉しく思いました。それに応えられるよう、実習で学んだことを生かし相手に信頼される看護師になりたいです。また、近くで一緒に頑張っている友だちや、指導をくださる先生達、家族にも支えてもらい、たくさんの人に感謝しました。2015年も人との繋がりを大切に、さらに広げていけたらいいと思います。

1年生

今年の一文字



高校を卒業して親元を離れて一人暮らしをして、新たな社会のルールや今まで親にやってもらっていたことの大変さを「学」びました。また、看護について「学」ぶために浜田医療センター附属看護学校で、看護について「学」びはじめたところです。学ぶとは、1.まねをする、まねをして言う。2.見たこと、聞いたことをそのまま人に語る。3.教えを受けて身につける、習得すると大辞泉にありました。「学ぶ」とは「知ることか」という本に学ぶといっても作法があります。たんに情報を「知る」段階から、「理解する」「疑う」「超える」という段階を経て、はじめて「勉強」は「学び」に発展するのですが、通常、人は「知る」「理解する」段階で学んだと思って自己満足しています。さらに「勉強」を超えて到着する「学び」の境地。旧来の常識や手本を学び、それを超えて自由になることは、人生の可能性を大きく切り開く。「学び方=生き方」なのだ。とありました。当校で「学ぶ」ということは生き方を学ぶことなのだと思います。これからが出発です。



今年の抱負

仲間と支えあって乗り越えたい

2年生 中村華奈子

私の今年の抱負は、実習で患者さんを多領域からアセスメントしていき、患者さんに合ったケアをしていくこと、国家試験に向けてしっかりと勉強をしていくことです。

まず実習についてです。去年の6月に行われた基礎看護学実習Ⅱではなかなか多領域で考えることができませんでした。しかし、実習の中で指導者の方に多領域でアセスメントしていくことで、患者さんにとってより良い看護をすることができるということを教えていただきました。一つの方向から見ていくのではなく、患者さんの年齢、家族、疾患など患者さんの周りのことも合わせてアセスメントしていくということの大切さがよくわかりました。そのためには、患者さんのみではなく、患者さんの家族の方ともコミュニケーションをとっていくことも大切だということがわかりました。そして患者さんのことを深く知り、それを看護ケアにいかしていけるようにしたいです。

国家試験については、今年は学年が一つ上になり、国家試験を視野に入れて勉強していく時期であるため、早めに勉強し、模試などで良い点を取り、自信をつけていきたいです。そのために、長期休暇などには、計画的に国家試験の勉強を行っていきたいと思います。実習で忙しいこともあると思いますが、時間を見つけて勉強に取り組むことができたらいいなと思います。

今年は最高学年になる年なので、先輩のお手本となれるように気を引きしめていきたいと思います。また、実習などで辛い思いをすることもありますが、その時は、61期生と支え合って乗り越えていきたいと思います。



今年の抱負

関わりの中で学ぶ

2年生 小林彩美

私が、今年頑張りたいことは二つあります。

1つ目は実習です。基礎実習で受け持ちの期間が短く、あまり関われない方もいました。その中で家族の方や、本人との会話の中から患者に必要な援助を見極める必要がとりました。これから、各論実習に入り、長期間実習が始まります。これまでの学びを活かし、実際に患者さんと関わらせて頂くことや、看護師の方との関わりの中で、多くのことを経験していくと思います。その中で、うまくいくことや嬉しいことより、うまくいかなくて悩むことや心が折れそうになることの方が多いと思います。まず自分で考え、答えが見つからない時には周囲の人に相談しながら、投げやりにならず、一つ一つの実習や一日一日の患者さんや看護師の方との関わりを大切にしていきたいです。そして、その関わりの中で、今までの学びを深め、患者と信頼関係を築き、患者中心の援助が提供できるようにしていきたいです。

2つ目は国家試験の勉強です。自分の国家試験を受けるまで約一年になりました。実習での学びも国家試験に結びつくため、実習での学びを振り返ることもですが、時間を見つけて、これまでの学びを復習していきたいです。国家試験ではこれまで学んできたことを全てが範囲になるので、時間をかけて復習し、繰り返し問題を解いていくことが必要だと思います。実習と並行して行うことは難しいですが、実習のない期間などの時間を有効に使いながら、少しずつ積み重ねていきたいです。

看護師になるためには、上記の2つのことは誰もがやらなければならないことです。自分の目標であった看護師になるためにも、今年は、この2つのことを頑張りたいです。



今年の抱負

先輩として、活動を盛り上げる

1年生
勝部甲二郎

今年の四月から2年生に進級し、後輩ができます。また、学校の様々な行事を主動していくにあたり、62期生全員がリーダーシップをはり、クラス全員でこの学校を盛り上げていこうと思います。



Q. 国家試験勉強に取り組んでいるとおもいますが、いかがでしょう。

A. 自分がやってることがこれでいいのかわからないです。なんだろう。不安しかありません。なんか自分がやってることがいいのかわからないから。問題集解いてわからなかったところをレビューに書き込んだり、放課後・朝やったほうがいいっていうのはあるんですけど、実際に受けるのが午前の日中なので集中力を続かせるためにも、朝方の生活にした方がいいとおもってます。

Q. 夜の方が勉強に集中できるのでみなさんどうしてますか？

A. たしかに学校がある日は朝起きようって思えるけど休日になると朝起きないです。でもなんか問題が解けるようになるのは楽しいです。たしかに。勉強の仕方ってみんな一緒ですね。どうなのでしょう。なんか悩んでましたよね。この前基礎のやり方とかもとりにいれたりしてました。

Q. 最初どうやって勉強してました？

A. ノートにまとめようとした人がおったけど時間がないからやっぱレビューに書き込んでおけばよかったって思いました。まとめるのはもうすこしはやい段階で。ひたすらレビュー開いてます。一回みたページも何回も見てレビューをかなり読み込んでます。そのとき開くと次開かない場合があるから、その時に開いて関連とのところも一緒に整理してます。

Q. レビューが一か所のところにいっぱいありますが。全部読みますか？

A. 青字を読みます。書いてあるところを自分が見やすいようにしてます。同じこと書いてあるけど開くとわかりやすくしてます。わからないので、でそうな問題は列にはっていつてます。ページも書いてます。

Q. 休日どれくらい勉強してますか？

A. してないです。家に帰ってからができません。私も早く寝ます。早く寝た方がいいです。起きて早く学校いくほうがいいです。でもできてないです。高校の時とか頭いい人は朝早いと思いました。

Q. 休日の朝とかは何時に起きてます？

A. 9時に起きて寝て起きたら11時くらいになってます。前日の夜に休みだからいいかなって思ってしまった、無駄に起きてますね私は、まあ勉強法っていったら個人差があると思うけど、とりあえずやっています。必修と一般をやります。

Q. 過去問をやっていますか？

A. 過去問やっています。予想問題が解けないです。難しいです。問題集だと全部間違えたりしてます。今の時期もう問題を解いて、だいぶ遅かったですね。やっとけばよかったです。ほんと後悔してます。今思えば。でも、できたのかなわかりません。そのときはもういっぱいだったのだから。

Q. 最後に一言お願いします。

A. やるしかないですね。この前の模試とても不安でした。答えがすごく嫌でした。実習がとれなかったらどうしようかと思ってしまいました。とにかくやるしかないです。

3年生からのアドバイス

1. 2年生のうちにどの教科書にどんなことが書いてあるかわかるような勉強の仕方が大切です。





今後の予定

平成 27 年	2 月 3 日	(火)	(一般入学試験合格発表)
平成 27 年	2 月 5 日	(木)	領域別実習 (2 年生)
平成 27 年	2 月 10 日	(火)	運営会議
平成 27 年	2 月 22 日	(日)	第 104 回看護師国家試験
平成 27 年	2 月 24 日	(火)	防災訓練
平成 27 年	3 月 4 日	(水)	卒業式
平成 27 年	3 月 19 日	(木)	終業式
平成 27 年	3 月 24 日	(火)	運営会議
平成 27 年	3 月 25 日	(水)	講師会議 第 104 回看護師国家試験 合格発表



編集後記

今年も 1 か月過ぎようとしています。穏やかなお天気が続き、春を思わせるような暖かな日もあって、日々平穏な時間が流れているように感じます。3 年生は国家試験に向かい、2 年生は本格的な実習に、1 年生は技術試験に追われ、自分の課題と向き合う日常です。

世界に目を向けると「国家」であることを自ら宣言して世界中から戦闘員を集め、勢力を拡大している過激派組織「イスラム国」、イスラム国を名乗るグループが、拘束している日本人 2 人を人質にとり、身代金を要求する映像がネット上に流れました。このような痛ましい事件や、テロや戦争が起こっています。

同じ地球のこの世界、多様な価値観や文化的な違いから、暴力やテロ、戦争が引き起こされているといわれています。私たちの日常の中でも、多様な価値観や異なる文化を理解し、認め合うすべを学んでいくことが私たちにできる暴力やテロのない世界を創る第 1 歩かなと思います。

2015 年は戦後 70 年の節目の年です。戦争を知らない私たち、平和への願いを込めて、他者の意見や価値観を理解する努力を行動にしていきたいものです。今年も Happy-hamakan-news をお届けできることを幸せに思います。KN



オープンキャンパスや受験情報など詳しくお問い合わせは

0855-28-7788

浜田 看護学校

